

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配慮項目	評価点	重み係数	内 訳			
<b>■1.「地球温暖化対策」の推進</b>						
<b>1.1 建物の熱負荷抑制</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 売場上部に駐車場階を設けることで日射負荷を抑制している。	3.0	0.71	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	2 外皮性能
	0.0	0.00				
	3.8	0.29	LR1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制		
小計	3.2	0.05				
<b>1.2 自然エネルギーの利用</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用		
小計	3.0	0.06				
<b>1.3 設備システムの高効率化</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 高効率熱源・最適制御を採用。	5.0	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化		
小計	5.0	0.31				
<b>1.4 設備システムの効率的運用</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 中央監視設備により、建物管理者の運用改善を補助。	3.8	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング	
	3.8	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制	
小計	3.8	0.12				
<b>1.5 資源・マテリアル対策</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 節水型器具の採用、躯体と仕上材が容易に分離可能とすることにより再利用性を高める、等により省資源化を図る。 路盤材、内装材にリサイクル材を活用する。	4.0	0.10	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水	
	3.0	0.11	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.05	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雑排水再利用システム導入の有無
	2.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用	
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	3.5	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材	
	4.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	
小計	3.3	0.32				
<b>1.6 ライフサイクルCO2排出率</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 高効率熱源・最適制御を採用し、ランニングエネルギーの抑制を図る。	4.2	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮		
小計	4.2	0.14				
<b>1.「地球温暖化対策」の推進の評価</b>						
	4.0	0.71				
<b>■2.「ヒートアイランド対策」の推進</b>						
<b>2.1 温熱環境の向上</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地面積10%以上の緑化。	2.0	0.51	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出		
	2.0	0.25	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上	
	3.0	0.24	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善	
小計	2.2	0.96				
<b>2.2 交通負荷抑制</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 十分な駐車台数、駐輪台数確保による交通負荷抑制。	4.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制
小計	4.0	0.04				
<b>2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価</b>						
	2.3	0.21				
<b>■3.「長寿命化対策」の推進</b>						
<b>3.1 耐用性の向上</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 屋外露出ダクトはガルバリウム鋼板製とし、ドレン抜きを設ける。	3.0	0.18	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震	1 耐震性
	3.0	0.27	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震	2 免震・制振性能
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.05	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	4.5	0.05	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.1	0.58				
<b>3.2 設備の更新性</b>						
(コメント) ※設計の計画に特段に配慮した事項を記載してください。 設備配線・配管は専用のシャフトに集約し、更新性に配慮。	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給排水管の更新性
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペースの確保
小計	3.0	0.42				
<b>3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)</b>						
	3.0	0.08				
<b>■重点項目の総平均(上記3項目)</b>						
	3.5					